



ユナイテッド・イン ディヴィジュアルズ

101

「一橋大学の先輩で作家の東京都知事に関して一言」。信州・長野県知事就任7ヶ月後の2001年5月21日、日本外国特派員協会会で2時間半と最長記録の会見を行った。

おうとした。従業員がライターを点火するとボーツと高く火が上がった。『君、失敬だな』と彼は激昂（げききょう）火傷した訳でも無いのに。そういう臆病な方だと」。

星霜を経て諷刺新聞『シャルリ・エブド』掲載の預言者ムハンマド風刺画に脊髄反射したイスラム過激派が2015年初頭、編集部襲撃。国連加盟135ヶ国（現在138ヶ国）が国家承認のパレスチナ自治政府をイスラエルが無差別空爆時は、非承認国を理由に具体的手立てを放棄した英仏独伊等の指導者は、仏大統領が呼び掛けたパリ追悼「抗議」行進に参加。イスラエル首相、パレスチナ議長も隊列で、「敵はテロリスト。イスラム教徒に非ず」と唱和。

便所の落書き以下と唾棄（だき）していた筈の為政者が同紙を「権威」として祭り上げる違和感を、編集会議に遅刻して難を逃れた諷刺漫画家が述懐しています。

「上下左右」を問わず、大きな声で「正義」を語る向きは往々にして「偽善」を身に纏（まと）っている。

「おしゃまな男の子」の僕が10代半ばから、体感（たいかん）の公理。以下は、1989年＝平成元年から30年以

上続く浅田彰氏との『憂国呆談』に於ける事件直後の僕の発言。「話しても完璧には判り合えない存在だからこそ会話する価値が恋愛でも家庭でも職場でも生まれるように、それこそが政治や外交の要諦（ようてい）。なにに最近洋の東西を問わず問答無用の思考停止状態な指導者が持（も）て離（はな）される。それと同じ単純思考のベクトル上に移民排斥運動が増えてきている」。

半世紀に亘（わた）ってマサチューセッツ工科大学で教鞭を執つたユダヤ系DNAの言語哲学者ノーム・チョムスキーは「9・11」直後、警句を発しています。「テロとは米

国に対する他者の行為であって、どんなに残酷な行為を米国が他者に行つても、それはテロではなく、防衛やテロ防止と呼ばれる」。「西洋植民地主義」の辛酸を舐めたパレスチナ人としてエルサレムで生を受け、レバノンで育つた文学批評家エドワード・サイードは1978年、「オリエンタリズム」こそは欧米の帝国主義的な野心を隠匿する意図に過ぎぬと看破。その彼の至言が「Jewish Non-Jew. Non-Jewish Jew」。

マルクスもフロイトもアインシュタインも定住するべき場所を持ち得ぬユダヤ人たればこそ、「肉体はジューイッシュユナレド、精神はノン・ジュー」な世界市民として自らの頭脳を人類の幸福の為に提供する気概の持ち主でした。

昨今はユダヤ人のみならず欧米人も日本人も中国人も、私は国籍を超えたノン・ジューイッシュユナレドの世界市民と嘯（うた）きながら、精神は利己的な私欲（うた）に墮（お）してはいまいか、と。

湾岸戦争「正義」勃発の1991年2月21日開催の「文学者の討論集会」。「われわれは、日本が湾岸戦争および今後ありうべき一切の戦争に加担することに反対する。」で締め括る「声明」の「我々」を「私」とすべき。中上健次氏を始め幾人かが申し立て、主語が異なる2つの「声明」の何れかに参会者は賛同する事となります。

真つ当（まこと）な「百家争鳴」を生業（なりわい）とすべき厄介（あやま）な存在（ま）は、であればこそ「加担しない」という一点に於いて、ユナイテッド・インディヴィジュアルズとして、自縄自縛な「連帯を求めて孤立を恐れず」を超え、「自律に根ざし連携を拒まず」を希求したのです。

た際、質問されました。「あの人はCoward＝カワードだと思えます」。理由を聞かれ、僕は続けます。「飽く迄も譬（たと）え話。彼はホテルのラウンジで葉巻を吸

★次号4月号の発行日は4月1日です。